

## 日本の地震に対する危機管理に見る 我々の業界の危機管理

関西グラフィア協同組合  
理事長 竹下晋司



内閣府と気象庁は8月8日、宮崎・日向灘の地震を受け、南海トラフ地震に関する「臨時情報」を初めて発表。マグニチュード (M) 8以上の地震の発生可能性が平常時より高まったとして、1週間の「巨大地震注意」を呼びかけた。南海トラフ地震評価検討会の平田直会長（東京大学名誉教授）は記者会見で、「普段よりも数倍、地震の発生する確率が高くなった」と説明した（一説によると0.5%だそうです）。

15日には特異な変化は見られなかったとして、呼びかけを終了した。「巨大地震注意」呼びかけの背景や地震予測の最新状況について、地震研究の第一人者である平田会長に話を聞いた。平田会長は2013年にも日経ビジネスのインタビュー（参照：日経ビジネス、大地震は「予知」できるのか）に応じており、その時からの技術進化についても語った。

と8月20日の「日経ビジネス」\*の記事に記載されていました。また、SNSで8月14日に地震は起きるといふ偽情報が拡散され、2650万回以上閲覧されているのも大きな問題だと思います。SNSはほとんど見ないので知りませんでした。何も起きなかったからこのような文章を書けるのかもしれませんが、個人的にはまだまだ、非科学的だなと思わざるを得ません。

ただし、進歩はしているようです。代表例が「Hi-Net（ハイネット、高感度地震観測網）」です。防災科学技術研究所が日本中に700カ所の観測点を整備し、2000年頃に観測網が完成しました。

そのほかに気象庁が約200カ所、大学が約100カ所を保有しているので、合計1000カ所近い観測点があります。そして、すべての地震のデータが24時間、365日、気象庁に集められています。

今度は確率論を考えますが、今後30年以内にM8程度の地震が起こる確率は14%、50年以内は20%、100年以内なら40%です。今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を見ると、多くは0.1%未満ですが、安全を意味するわけではありません（NHK）。

地震調査研究推進本部地震調査委員会では、首都直下地震で想定されるM7程度の地震の30年以内の発生確率は、70%程度（2020年1月24日時点）と予測しています。

確率からすると南海トラフのような大きな地震が近づいていることは間違いないのですが、今回のような緊急な発令が続くと狼少年になりかねません。しかしながら、しっかりと1人ひとりが認識しないと大惨事に繋がることは避けられないでしょう。被災していない人にとっては、実感がわからないのかもしれませんが、今こそ対策をする時期が来たのだと感じます。

話は変わりますが、我々の業界の危機管理はどうでしょうか。

プラスチックと我々の生活は切り離せないのが現状で、三井化学㈱グリーンケミカル事業推進室は「BePLAYER」と「RePLAYER」という情報を配信しています。参考になる資料で面白い内容です。

しかしながら日本の有識者は、プラスチック悪説が多くを占めています。GPJAPAN 8月号の北陸グラビア協同組合の賀谷眞尚理事長の巻頭言で、海洋プラスチック問題に着目していますので多くは申しません。衣類(大半が化学繊維)を洗濯すると、見えないマイクロプラスチックが多く海洋に流されますが、大半はマスメディアの大手広告スポンサーですので触れることは不可能でしょう。

私も、罰則と厳格に取り締まる案に大賛成です。また、綺麗な五島列島にプラスチックごみが漂流しているのはご存じでしょうか。なかでも**問題**になっているのは、ほとんど自然に還らない**プラスチックごみ**。PETボトル、発泡スチロール、漁業に使われる網などです。

何処から流れてくるのか分かりませんが、日本が多くのプラスチックごみを東南アジアに捨てているのも原因の1つかもしれません。

地震の問題も同様に、最終的には、1人ひとりが自覚して対応しないと收拾がつかない事態に陥ることは明白です。

話が二転三転して申し訳ありませんが、環境対策にかかる費用などを含め、価格転嫁をしっかりと、私達の業界の重要性、地位向上を全国グラビア協同組合連合会を通して発信していかなければならないと感じています。

※引用元：<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00122/081900217/>

太字は筆者による

日印産連表彰

## 印刷功労賞に石井 純氏 印刷振興賞に川嶋春広氏

日印産連表彰は、長年にわたり印刷産業の発展に貢献した個人・団体に対して顕彰する制度で、今年度は、印刷功労賞を全国グラビア協同組合連合会副理事長の石井 純氏（関東プラスチック印刷協同組合理事長、(株)多漣堂）が、印刷振興賞を川嶋春広氏（九州グラビア協同組合事務局、(株)平野屋物産）の受賞が決まりました。

### 印刷功労賞

日印産連表彰

### 石井 純

全国グラビア協同組合連合会  
副理事長

#### 【推薦事由】

2005年6月理事就任、「組合のないところに業界の発展はない」という先輩の意思を受け継いで、組合運営に携わり、組織強化、業界の振興発展に長年にわたり貢献している。また、全国グラビア協同組合連合会の副理事長に就任し、業界の地位向上、適正料金の確保、環境問題への社会的責任への取り組みなど積極的に参画し、具体的事業計画を推進している。地球温暖化の防止、大気汚染防止法によるVOC排出抑制規制への対応、SDGsへの啓蒙のため、勉強会等を計画、開催に尽力した。上部団体が行う環境対策セミナーへの参加を積極的に事業計画に盛り込むなど、長年組合に貢献している。

### 印刷振興賞

日印産連表彰

### 川嶋春広

(株)平野屋物産  
取締役 総務部長

#### 【推薦事由】

1998年、(株)平野屋物産の総務課長就任と同時に九州グラビア協同組合の事務局の職に就き、3代の理事長を補佐し続けている。26年余りの任期中の全ての行事・企画を取り仕切り、九州エリアでの業界発展の礎となっている。



## 今月の表紙



TOKYO PACK 2024に出展する(株)シンク・ラボラトリーの「FXJ type1000 FullAuto SP」(上段左)と「グラビア シリンダー版面自動検査装置」(上段右)、(株)オリオン商事の独・DMA社製グラビア彫刻機「DMA R10-16SA」(下段)

2024年9月号 No.286 全国グラビア協同組合連合会

## CONTENTS

- 巻頭言 日本の地震に対する危機管理に見る我々の業界の危機管理** ..... ①  
関西グラビア協同組合 理事長 竹下晋司
- 全グラ** ..... ③  
日印産連表彰、印刷功労賞に石井 純氏、印刷振興賞に川嶋春広氏
- 組合員・単組の近況** ..... ⑥  
関東グラビア協同組合 定例理事会：外国人材の受け入れ・共生に向けて取り組み推進
- JFPI** ..... ⑧  
北四国グラビア印刷がGPマーク普及大賞ゴールドプライズ  
大賞は巧芸社、準大賞は賀谷ゼロファン
- マニュアル版 価格修正についてのお願い** ..... ⑪
- TOKYO PACK 2024、10月23日～25日の3日  
東京ビッグサイトで開催** ..... ⑫
- 軟包装衛生協議会、TOKYO PACK 2024出展者プレゼン、  
逸見常務理事が登壇** ..... ⑬
- Packaging** ..... ⑱  
日本包装機械工業会、9月28日、10月20日、TOKYO PACKで学生向け  
「包装業界就活フェスタ-秋-」開催

Data Watch 2024年5月	20
紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2024年6月	26
目立ってしまいましたが、実力もすごいのです	30
熱中症予防スイッチ・オン 自分でできる7つのこと	32
外国人労働者雇用労務責任者講習～外国人雇用労務管理のポイント～	34
カラーマネジメント技術を活用したサブスクデジタルサービス 「DIC COLORCLOUD S」 DIC グラフィックス(株)	36
NEWS Pickup	38
GP認定制度申請についてのお願い	40
「ほめてもらえる職場」などで良好な回答が増加 ドクタートラスト ストレスチェック研究所	41
第75回全国労働衛生週間	46
<b>Information</b>	
シリウスビジョン、本社移転	39
サカティンクス、ダイセキと廃インキ等のリサイクル実証実験を開始	44

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。  
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2024年9月10日  
 発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）  
 発行所：全国グラビア協同組合連合会  
 〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9  
 あさひ墨田ビル  
 TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814  
 編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）  
 渡邊富美子（同事務局）、酒井由香（同）  
 編集協力：(株)加工技術研究会  
 印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2024

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

# 組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 定例理事会

## 外国人材の受け入れ・共生に向けて取り組み推進

関東グラビア協同組合は2024年7月11日（木）午後3時より、組合事務所とZoomを併用し、定例理事会を開催した。当日は、吉原宗彦理事長（東京加工紙株）、田口薫最高顧問理事（大日本パッケージ株）、安永研二副理事長（東包印刷株）、山下雅稔副理事長（株巧芸社）、川田雄治副理事長（トーホー加工株）、千田敦理事（株東京ポリエチレン）、福島潤理事（株東和プロセス）、諸石武士理事（日本パッケージング株）、柴田里香理事（弁護士）、袖山高明専務理事、オブザーバーとして下田幸二氏の11名が組合事務所から、橋本章理事（橋本セロファン印刷株）、岸本一郎監事（株カナオカ）、佐藤裕芳監事（株千代田グラビヤ）、オブザーバーとして松本太氏の4名がZoomにて参加した。

吉原理事長は冒頭、「6月14日に育成就労制度の創設などを主な内容とした改正入管法等が参議院本会議で可決され、成立しました。JICA（国際協力機構）の調査研究によると、2040年に688万人の外国人労働者が必要だという推計が出ています。現在、日本で働いている外国人は約204万人だそうなので、今よりも3倍、外国人労働者が増えるということです。2040年には外国人労働者なくして経済は回らない状況になります。日本の文化や日本語の教育、差別・偏見、重労働など、今抱えている問題をしっかり解決し、我々組合を含めて働きに来ていただく外国人の方とWin-winの関係をしっかりと築いていかななくてはならないと感じました。本日の議題にも育成就労と特定技能がありますので、活発なご意見をお願いします」と挨拶した。

続いて、オブザーバーとして参加した下田氏と松本氏の挨拶の後、以下の議論に入った。

### 「価格修正についてのお願い」文書について

「価格修正についてのお願い」文書の高解像度版（活用についてはマニュアル版11頁参照）は、既に全グラ事務局より各単組事務局と理事長に配信されているが、田口最高顧問より、「事業を継続していくためには適正価格が絶対に必要であることを浸透させていかなければいけません。この文書をどんどん使っていただきたい」とのコメント。

### 全グラ通常総会・理事会・懇親会

6月7日（金）に九州で開催された第54回全国グラビア協同組合連合会 通常総会・

理事会・懇親会について袖山専務理事より報告があった（詳細は GPJAPAN 7月号を参照）。

## 日印産連関連

袖山専務理事より、以下について報告があった。

- ・今年度の日印産連表彰では、印刷功労賞に全グラ副理事長の石井 純氏（関東プラスチック印刷協同組合理事長、(株)多連堂）と印刷振興賞に川嶋春広氏（九州グラビア協同組合事務局、(株)平野屋物産）を推薦（詳細は3頁参照）
- ・2024年度の日印産連委員会に、「パートナーシップ推進プロジェクト」が新たに設立され、全グラからは川田雄治理事が委員として参加

## グリーンプリンティング認定関連

日印産連のグリーンプリンティング (GP) 推進部会の委員である山下雅稔副理事長より、「6月20日にGP周知WGで2023年度のGPマーク表示件数を集計し、今年度のGP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材大賞の候補企業を決定し、7月5日のGP推進部会に上程しました」との報告と、表彰基準について改めて説明があった。また、10月30日（水）に出版クラブホール（東京都千代田区神田神保町1-32）において、GP環境大賞等表彰式と4年振りの懇親会が開催されるので、ぜひ参加を。

## 育成就労と特定技能、関東グラビア協組セミナー

はじめに、吉原理事長より技能実習評価試験場の提供について次のような報告があった。「インキメーカー各社にテスト機などをお借りして試験を行うこと検討するため、全グラの都築晋平顧問とインキメーカーさんの工場に見学に伺いました。エアシャワーや手洗いなどの衛生面や安全面で対応が必要となると思いますが、メーカーさんに確認しながら、ご協力を得て進めているところ。詳細が決まり次第、報告します」。

続いて、袖山専務理事より、育成就労制度、特定技能制度の現状について説明が行われた。なお、10月2日（水）に印刷会館2階において開催予定の関東グラビア協同組合セミナーでは、「外国人育成就労制度、特定技能制度を中心に講演を予定。多くの方にご参加いただきたく、組合員以外の方にも案内しています。講演終了後は懇親会も予定しています」（吉原理事長）。

## 北四国グラビア印刷がGPマーク普及大賞ゴールドプライズ 大賞は巧芸社、準大賞は賀谷ゼロファン

(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)は、グリーンプリンティング(GP)認定制度の2024年度「GP環境大賞」「GPマーク普及大賞」「GP資機材環境大賞」の受賞企業・団体を下記のとおり決定した(各賞とも五十音順)。グラビア印刷部門では、(株)北四国グラビア印刷がGPマーク普及大賞ゴールドプライズを、(株)巧芸社がGPマーク普及大賞を、賀谷ゼロファン(株)がGPマーク普及準大賞を受賞した。表彰式は2024年10月30日(水)に出版クラブホール(東京・神保町)において実施する予定。

### GP環境大賞

GP環境大賞は、印刷業界が地球環境への負荷低減に取り組むために創設したGP認定制度に対して、深く理解し積極的に活用している企業や団体に敬意と感謝の意を込めて贈るもので、今回は、2023年4月1日から2024年3月31日にGPマークを表示した印刷製品をもっとも多く発注した企業・団体を表彰。同賞は一般印刷とパッケージ印刷に分かれており、過去3回GP環境大賞を受賞した企業・団体は4回目の表彰時にその活動に対して最大の賛辞と敬意を表すために「GP環境大賞ゴールドプライズ」を贈呈している。

### 2024GP環境大賞ゴールドプライズ

(株)ジェイアール東日本企画



東武鉄道(株)





### 一般印刷の部

#### 2024GP 環境大賞（2社）

あいおいニッセイ同和損害保険(株)、日本航空(株)

#### 2024GP 環境準大賞（5社・団体）

社会福祉法人恩賜財団済生会、全国間税会総連合会、東急(株)、  
(株)ホンダモビリティ中部、(株)ポストイングセンター沖縄

### パッケージ印刷の部

#### 2024GP 環境大賞（1社）

(株)あわしま堂



#### 2024GP 環境準大賞（2社）

国分グループ本社(株)、竹下製薬(株)

### GP マーク普及大賞

GP マーク普及大賞は、GP マークを表示した印刷物の拡大にもっとも貢献した GP 認定工場を会社単位で表彰するもので、2023 年度に GP マーク表示印刷製品をより多く受注・製造した印刷会社を表彰する賞で、オフセット印刷部門、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門に分かれている。なお、過去3回以上 GP マーク普及大賞を受賞した印刷会社には、最大の賛辞と敬意を表するために、「GP マーク普及大賞ゴールドプライズ」を贈呈している。

#### 2024GP マーク普及大賞ゴールドプライズ（2社）

NTT 印刷(株)、六三印刷(株)

## オフセット印刷部門

### 2024GP マーク普及大賞（3社）

宝印刷(株)、(株)文伸、丸正印刷(株)

### 2024GP マーク普及準大賞（5社）

伊藤印刷(株)、(株)笠間製本印刷、精英堂印刷(株)、(株)太陽堂印刷所、大日本印刷(株)

## グラビア・シール・スクリーン印刷部門

### 2024GP マーク普及大賞ゴールドプライズ（1社）

(株)北四国グラビア印刷

### 2024GP マーク普及大賞（1社）

(株)巧芸社

### 2024GP マーク普及準大賞（1社）

賀谷セロファン(株)

## 製本・表面加工部門

### 2024GP マーク普及準大賞（1社）

TADクロスメディア(株)

## GP 資機材環境大賞

GP 資機材環境大賞は、印刷工場環境負荷低減および作業環境改善に貢献し、GP 資機材認定製品を積極的に提供している資機材メーカーに贈るもので、2024年4月1日時点でGP 資機材認定製品の登録がもっとも多い資機材メーカーを資材、機材の部門別に表彰。なお、同賞については、過去に同部門を受賞したメーカーは選考対象外となる。

## 機材部門

### 2024GP 資機材環境大賞（1社）

キヤノン(株)

※資材部門は本年度該当なし

<マニュアル版>

本文書の使用に際しては下記の点にご留意ください

1. 本文書は修正せずにそのままご利用下さい。本文書を修正し、組合員間で協調し一定の値上げ率を書き込み共同で提示するなど、独禁法に抵触する使用方法は絶対に行わないようお願い申し上げます。
2. 本文書を使用する際は、本文書が下請振興法第3条1項、振興基準第4条1項（対価の決定の方法の改善）に基づいたものであることをご説明ください。
3. 本文書は使用を強制するものではありません。

令和6年6月

お客様各位

価格修正についてお願い

全国グラビア協同組合連合会  
会長 田口 薫



日頃、組合員へ格別のご配慮を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、ここ数年に及ぶ円安による原材料・燃料の高騰並びに人手不足は、組合員各社の経営を圧迫しております。とりわけ、国を挙げての賃上げについて当業界は未だ達成しておらず、結果として、時短・ペースアップ等、従業員還元ができなければ社員をつなぎとめることはできません。

さらに今回、グラビアインキ、フィルム、動力費・運搬費の値上げを要請されているばかりではなく、原材料供給そのものに大きな変化が起きています。

- ・2021年秋、ドライラミネート用溶媒の酢酸エチルの供給逼迫
- ・白色顔料（酸化チタン）の国内主力メーカー3社の内2社が撤退発表
- ・フィルム大手メーカーが包装用フィルム事業を譲渡
- ・大手インキメーカーのグラビアインキ事業の撤退

等々、投資負担が大きい低収益の事業から減産・撤退し、高収益体質への変換を図る原材料メーカーの動きが顕在化しています。このままでは、製品をお届けしたくてもお届け出来ないと言う事にもなりかねません。私共はこの30年あまり設備投資もペースアップも十分に行えず我慢して参りましたが、今回は存亡の危機と捉えております。お客様に於かれましても大変な時期ではございますが、是非とも私共の願いをお聞き届け頂けますようお願い申し上げます。

# TOKYO PACK 2024、10月23日～25日の3日 東京ビッグサイトで開催

「世界が驚く包装イノベーションを！ - TOKYO PACK から世界へ - (TOKYO PACK Inspires the Packaging World)」をテーマに、日本包装技術協会主催の国際総合包装展「TOKYO PACK 2024 (2024 東京国際包装展 - Tokyo International Packaging)」が、2024年10月23日(水)～25日(金)の3日間、午前10時～午後5時まで、東京ビッグサイト東1～6ホールで開催される。コロナ禍を経た6年ぶりの通常開催で、開催規模は7月29日時点で721社・団体、2313小間と、22年の前回展(406社・団体、1602小間)を大幅に上回った。来場事前登録は、<https://f-vr.jp/tokyo-pack/jizen/>から。

## 出展者の見どころ情報

- 出光ユニテック**：シート、容器、フィルム、ジッパーによるトータルパッケージ。新規開発・環境対応商品を中心に20アイテム以上
- 岩谷産業**：廃食油等の再生原料から作られたPP・PE樹脂原料「CirculenRenew」(共同出展：Basell Asia Pacific)
- イリス**：ウィンドミュラー&ヘルシャー社(W & H、ドイツ)製フィルム成膜機、フレクソ印刷機、グラビア印刷機、製袋機、ノルドメカニカ(イタリア)製無溶剤ラミネーター「Duplex SL 450」「Super Simplex SL」、ユーロマック(イタリア)製ワイドウェブ用スリッター・リワインダー「TB 3」、フィルムメーカー用スリッター・リワインダー「TB 6」、B&B社(ドイツ)製高性能パウチ製袋機
- WIPAK (フィンランド)**：モノマテリアルフィルム
- 宇部情報システム**：フィルム製造・コンバーティング・プラスチック成形加工業専用統合基幹業務システム「UP-One」
- エスコグラフィックス**：drupa 2024にて発表のプロトタイプソフトウェア
- Ecoinno Japan**：冷凍保存、電子レンジ、蒸し調理、オーブンで使用可能なパルプモールド食品容器
- EnvopAP (イギリス)**：農業用繊維混合物原料のパッケージ、コピー用紙、クラフト紙、バリアコート紙
- 大野ナイフ製作所**：ロボット・自動機械用工業用刃物

- 大紀商事**：生分解性素材を使用した飲料用フィルター「サスティコ」
- オーミケンシ**：耐油性、酸素バリア性を有しレンジ対応可能なセルローズ 100%の紙包材「Magnature」
- オリオン商事**：ドイツ DMA Innotec 社製グラビア彫刻機「DMA R10-16SA」
- カナエ**：モノマテリアルパッケージなどのサステナブル製品・サービス
- 開伸**：片手で可能な小袋包装「V パックカードタイプ」
- コーレンス**：スウェーデン・プルパックス社のドライモールドファイバーによるコーヒーリッド、食品トレー、カトラリー、包装資材サンプル
- コダック**：IJ 印刷機「KODAK PROSPER IJ」、IJ ソリューション「KODAK PROSPER インプリンティングシステム」、特色再現用ソフトウェア「KODAK Spotless」
- KOMAS (韓国)**：真空包装、液体包装、ガス充填包装に使用可能な深絞り包装機
- サーフテクノロジー**：フィルムカス付着抑制用 DLC コーティング、樹脂製品の滑り性向上用マイクロディンプル (MD) 処理
- 佐々木化学工業**：抗菌、防カビ、抗ウイルス剤「CitAg2400 (サイテージ 2400)」
- シグマ紙業**：紙製スタンディングパウチ「オルカミスタンディングパウチ」
- シンク・ラボラトリー**：グラビア製版装置「New FX3」、軟包装水性 IJ 印刷機「FXIJ」
- 船場化成**：海洋生分解性フィルム「SP マリン」、再生原料による低コスト・高品質フィルム「カルデコ」
- ダイオーミウラ**：紙製カトラリー・パッケージ
- 大化工業**：マイクロポラスフィルム (通気性フィルム) 他
- 大同至高**：PLA 透明袋「バイオ 99」、発泡 PLA シート
- 塚谷刃物製作所**：多種多様な工業用刃物
- 東洋インキ**：プラスチック包装のモノマテリアル化・紙化・バイオマス化・マテリアルリサイクル・水性・無溶剤活用例
- DIC**：「3R (リデュース、リユース、リサイクル)」にリデザイン (再設計) とリニュー (再生) を加えた「5R」
- トパック**：高速三方シール包装機「RF-66」、多列式スティック製袋充填包装機「SL-8FM」、三方シール包装機「K-340T」、背貼りシール包装機「N-360T」
- トライテック**：ロール搬送対応 自己シールド EB 照射システム「EB SR- 1」、軟包装向け水系 IJ 装置「Roll JET FP」、円筒形基材用ダイレクト印刷機「Cylinder JET」シリーズ
- 日本ゼオン**：シクロオレフィンポリマー (COP) 製医療容器の展示や半導体容器



DIC の 3R にリデザインとリニューを加えた「5R」

- **NISSHA**：パルプ成形品「PaperFoam（ペーパーフォーム）」「Pulp-Injection（パルプインジェクション）」「Paper-Pressing（ペーパープレッシング）」「Pulp-Thermoforming（パルプサーモフォーミング）」「Sulapac」
- **パイロットインキ**：示温インキ
- **ヒューグルエレクトロニクス**：精密除塵装置「超音波ドライクリーナー」、静電気対策装置「イオナイザ」
- **フジキカイ**：リニア搬送包装システム、高速超音波加熱シール横形ピロー包装機「FUW3400/B α 8」
- **富士印刷**：「6点貼りパッケージ」
- **古川製作所**：豎型袋詰真空包装機「FVV-10-220N Ⅲ」、自動袋詰シール機「FF-220N Ⅲ」、コンパクト連動真空包装機「FVB-UC-400」
- **PulPac（スウェーデン）**：ドライモールド製のコーヒーリッド、食器
- **富士フィルムグラフィックソリューションズ**：軟包装用水性IJデジタルプレス「Jet Press FP790」、高画質・高生産性・低臭気を実現したUVIJデジタルプレス「Jet Press 540WV」
- **ペーパーウェア**：竹パルプ製食品容器、介護・医療食向けディスプレイブル食品容器、未晒し原紙
- **ヘンケルジャパン**：紙用コーティング剤「AQUENCE EPIX シリーズ」、無溶剤型軟包装ラミネート用接着剤「LOCTITE LIOFOL」
- **北越パッケージ**：ガス置換およびスキンパック可能な紙容器「Halopack」、ヒートシール紙「パンセ」、酸素バリア紙、バイオマス樹脂製液体容器
- **ポリマウント（オランダ）**：フィルム印刷用脱墨装置「ポリマウント・フィルム・クリーナー PFC-1300」
- **ミヤコシ**：水性IJプリンター「MJP ADVANCED 30X for FILM」、CI型水性フレキソン印刷機「MCI 1000W」、ライン型EBオフセット印刷機
- **ヤマハファインテック**：軟包装用シール不良全数自動検査装置「超音波式ヒートシール検査ステーション」他
- **レゾナック・パッケージング**：ボイル・レトルト殺菌可能で易開封、高密封が可能な「アルミック缶」、アルミ蓋材「SPACAP」、インライン成形用アルミ製包装材料「ハードパック」



ミヤコシの MJP ADVANCED 30X

他にも次のような企業・団体が出展する。

イデグチ製袋、エムエスティ、王子ホールディングス、大石産業、大阪シーリング印刷、片岡機械製作所、共同印刷、京町産業車輛、グンゼ、コジマプラスチック、サカタインクス、サワーコーポレーション、SCREEN GP ジャパン、SCREEN グラフィックソリューションズ、三洋貿易、三和紙工、新星コーポレーション、総武機械、大成ラミック、ダイセルミライズ、大日本印刷、大日精化工業、太洋電機産業、ダウ・ケミカル日本、タカラ、ダックエンジニアリング、タマポリ、彫刻プラスト、千代田グラビヤ、司化成工業、ツキオカフィルム製薬、ツジカワ、帝人フロンティア、DIC グラフィックス、T&K TOKA、東伸、東洋モーター、トーヨーケム、東京計器、TOPPAN、東洋製罐グループホールディングス、東洋紡パッケージング・プラン・サービス、特種東海製紙、トタニ技研工業、TU PHUONG BOPP FILM FACTORY (ベトナム)、軟包装衛生協議会、ナビタスマシナリー、ナルシマ、日本工業刃物、New IWASHO、ニッポーパック、日本化工機材、日本エス・アンド・エイチ、野添産業、ノードソン、のむら産業、Basell Asia Pacific Ltd. (香港)、廣川、日立造船、フジキカイ、不二レーベル、フタバ、フタムラ化学、プラグ、プロスパークリエイティブ、ブラザー工業、ブラザーインダストリアルプリンティング、ヘンケルジャパン、北海製罐、北越パッケージ、細川洋行、松尾産業、三井化学、三井・ダウポリケミカル、マルチバック・ジャパン、メイワパックス、メカニイズ、モリコー、山中産業、ユニチカ、吉田印刷所、横浜リテラ、ラヤマ・パック、レンゴー

### 国内外のキーパーソンによる講演やセミナー

会期中は、基調講演や各種講演が 70 本以上企画されている。いずれも無料だ。

初日の 10 月 23 日開催の**基調講演**として、「**プラスチックに係る資源循環の取組をはじめとした資源循環経済政策について**」(経済産業省 GX グループ資源循環経済課)、「**フレキシブルパッケージ – 米国の軟包装業界の現状とイノベーションを推進する法規制 –**」(米国軟包装協会 (FPA) 会長 ウィリアム・ジャクソン氏)、「**未来のパッケージング サステナビリティを推進する世界の最新技術とトレンド**」(国際包装プレス連盟 (IPPO) 会長 リンディ・ヒューソン氏)、「**グローバルなパッケージデザイン規制とサステナビリティの最新トレンド**」(世界包装機構 (WPO) 副会長) ネリダ・ケルトン氏)、「**アジアにおける包装の未来、その最新動向と課題とは**」(アジア包装連盟 (APF) 会長 ジョセフ・ロス氏)の 5 本が予定されている。

同じく 10 月 23 日開催の**グローバルパッケージングシンポジウム**は「**包装と包装廃棄物の世界的な規制にどう対応するか?**」がテーマ。パッケージング・ストラテジー・ジャパン取締役社長の森 泰正氏をモデレーターに、FPA 会長のウィリアム・ジャクソン氏、TOPPAN 常務執行役員 常務執行役員 生活・産業事業本部 グローバルパッケージ事業部長兼トッパン USA 社長の立脇雅彦氏、Kuraray EVAL Europe Technical Service

Director のヴァウト・ルイテン氏、細川洋行 専務取締役 営業本部兼技術本部長の吉留忠宣氏、トタニ技研工業シニアアドバイザーの植木 昇氏の5人がパネリストとして登壇する。

30周年記念講演は会期中の3日間、日替わりで開催。10月23日は「消費動向からみる、これからの売れるモノづくり～効果的なパッケージとは」（インフィニティ 牛窪 恵氏）、24日は「今、注目を浴びる「Z世代」の消費性向とパッケージへの示唆」（芝浦工業大学インサイトデザイン研究室担当教員 原田曜平氏）、25日は「脳とAIの未来」（東京大学大学院薬学系研究科教授 池谷裕二氏）。

包装力向上セミナーは会期中全15本。「サステナブルパッケージとプレミアム価値の両立」（資生堂 松原千枝氏）、「フィルム容器の水平リサイクルの実現に向けた取り組みフィルムボトル容器開発事例のご紹介」（花王 山本幹也氏）、「フィルムボトル容器開発事例のご紹介」、「ロッテのサステナブルな容器包装の実現に向けた取り組み」（ロッテ 藤原普夫氏）、「企業の垣根を超えて実現したい包装による環境負荷低減～サステナブル医薬品包装推進コンソーシアムの活動紹介～」(武田薬品工業 木下田美子氏)、「ラベルレスボトルの開発」（コカ・コーラ 飯田 亮氏）など、化粧品、日用品、食品、医薬品メーカーも登壇。

最終日の10月25日のパネルディスカッション「バリューチェーンで創る環境配慮設計～CLOMAの動静脈連携～」は、CLOMA 柳田康一氏をコーディネーターに、味の素の豊崎 宏氏、花王の田村英子氏、TOPPANの藤井 崇氏、丸喜産業の小園雄治氏の4人がパネリスト。

10月24日は、アマゾン・ドイツ シニア・パートナー・マネージャーのグネリ・ドゥージェ氏、ダウ・ケミカルによるグローバルセミナー、スウェーデン包装イノベーションセミナーも企画。

包装実務者向けの「テクニカルセミナー」は会期中全16本。デザインについての素朴な疑問にイチから答える「パッケージデザインセミナー」は同11本、出展社による「最新包装技術セミナー」は同25本と盛りだくさん。

会場では、CLOMAの活動を紹介する「CLOMAパビリオン」、デザイナーと包装業界をつなぐ企画展示を行う「パッケージデザインパビリオン」、産学連携のコミュニティゾーン「Packaging Academia」も設けられるほか、知的財産など包装に関連する多様な課題についてスペシャリストと相談できる「各種相談コーナー」も設置。2024年度木下賞受賞作品および2024日本パッケージングコンテストの入賞作品が展示され、アジア太平洋地域では初となるダウ主催のパッケージング・イノベーション・アワードの表彰式も執り行われる。



前回展の基調講演の様子